

5. おわりに

本研究では、このNILIM-AISにより台風9号の通過ともなう東京湾内での避泊実態に関する分析を実施した。

さらに、浦賀水道航路の航行実態に関する分析を踏まえて、浦賀水道航路の最大航行可能容量に関する考察も行った。

ここで、データ取得時点はAISの搭載についての猶予期間であることから対象船舶の全船に搭載されていないためにAISデータには欠損があること、また、艦艇等は非搭載が認められていることから北航・南航ともに15隻を最大航行可能容量とすることについて、引き続き検討することが必要である。

ただし、今回の比較対象とした2時点では同様の精度であることから、本研究で得られた通常時の最大値の最大航行可能容量に対する比率は、今後の浦賀水道航路の開発・保全に対して有意な示唆を与える値であると考えられる。

なお、今後は水先人等海事関係者のヒアリングを含めて、本研究の結果について更に分析することが必要であると考ええる。

(2007年11月15日受付)

参考文献

- 1) 東京管区気象台：平成19年9月 台風第9号に関する気象速報
- 2) 高橋宏直，後藤健太郎：AISデータの港湾整備への活用に関する研究，国土技術政策総合研究所研究資料No.420，2007